

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201026		
法人名	医療法人政裕会 ときつ医院		
事業所名	グループホーム多久庵		
所在地	福岡県福岡市西区内浜2丁目4-9		
自己評価作成日	平成23年2月12日	評価結果確定日	平成23年4月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリクス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>運営母体がときつ医院であり、医療との連携を密にとりながら、体調の急変等にはすぐに対応できる体制ができており、高齢者の方が安心して過ごせるように努めている。そういった、医療面のバックアップをもとに、理念に掲げている「穏やかな死の援助」を実践している。</p> <p>また、法人内にはグループホーム楽居や、デイサービス、ケア付きアパート等もあり、それぞれとの連携を取りながら、ケアの幅を広げている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>現在、4名の利用者が在宅酸素療法中である。酸素のアラームが鳴れば速やかに職員が訪室し、点検確認作業を行った上で、他の職員にも報告するなど、落ち着いて対処され、職員同士の連携がとれている事を確認できた。母体である医院の看護師を講師として、在宅酸素療法や吸引についての勉強会も行なわれており、理念にもある「穏やかな死の援助」に向けてのサポートを法人全体で支援している。医療との連携が密なことや、最期まで馴染みの場所で暮らせることが、利用者や家族の「安心」につながっている。</p>

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の		65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある		66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が		67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が		69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が		70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立した人生の確立」「選択の自由と機会」「個人の尊重」「プライバシーの保護」「穏やかな死の援助」という理念をもとに日頃よりケアを行っている。	理念の5項目は、毎月のミーティングや法人全体でのミーティング(3~4カ月に1回)時に話し合い、理念の共有や意識付けを行っている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の定例会等への出席や、町内の夜間パトロール、防災訓練への参加などを通じて交流を図っている。	自治会の定例会や年1回の校区の防災訓練、4カ月に1回夜間パトロールに参加している。ホームの行事には、三味線や大正琴のボランティアが訪れている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会への参加などにより、地域の方に認知症を理解して頂くよう努めている。また、法人内にはとぎつ医院による訪問看護や往診、デイサービスもあるので、法人全体で、地域の高齢者へ支援をしている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議内で出た、ご家族からのご意見、ご要望等を伺い、サービスの向上に生かしている。	前年度まで定期的な開催がなされていなかったが、今年度より2ヵ月に1回定期的開催されている。参加者は家族、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員等で構成され、ホームの活動報告や、地域からの情報提供等の話し合いが行われている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所からの調査への回答やご家族からのご要望に対する相談などにより連携を取っている。	運営推進会議でホームの実情や取り組み状況を伝えており、日頃の相談は地域包括支援センターに相談している。今年度「高齢者不在」問題で、所在確認方法について市に相談し、助言をもらって対応した経緯がある。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	赤外線センサーの利用などにより、身体拘束をしないケアを目指している。どうしても必要な場合は、ご家族へ説明し、同意のもと行っている。	スタッフ会議や個別のカンファレンスにおいて、言葉や薬による抑制についても意識を持ちながら、職員間の共通認識を図っている。法人として、身体拘束廃止委員会を設置し、拘束の解除に向けた視点を確保している。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、虐待が起きないように、また見過ごされる事が無いよう努めている。	

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターより講師としてお招きし、成年後見制度についてお話を頂き、理解を深めるよう努めている。	現在制度を活用している利用者はいない。今年度は成年後見制度についてのみ研修を行っている。管理者は、今後定期的に研修を開催していきたいと考えている。	家族や地域から質問された場合に対応できるよう、資料を取り寄せる等し、定期的に勉強会や研修に参加され、職員の理解が深まることを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時には、話し合いを行い、不安感などを取り除ける様努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時や運営推進会議などで、ご意見ご要望をお聞きするようにしている。また、外部及び当ホームの苦情相談窓口をリビングへ掲示し、重要事項説明書にも記載している。	家族会はなく、年2回利用者と家族が集まった食事を開催し、話を聞く機会を設けている。家族から「外出の機会を増やして欲しい」「刺激のある事を増やして欲しい」との意見があり、行事の中に山笠やどんたくを観に行くようにした経緯がある。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等により職員の意見や提案を聴く機会を設け、必要に応じて法人全体の各部署のリーダーミーティングにて話し合うようしている。	毎月のミーティングで職員の意見を聞く機会を設けている。夜勤体制を2名から1名に減らす案があったが、職員の要望を受け入れ、現況の2名体制が維持されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	法人全体の各部署のリーダーミーティングにより、職場環境の状況報告等により把握するよう努めている。また、向上心を持てるよう、外部研修等の研修費の負担等行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に当たっては、性別や年齢などは考慮に入れず、仕事へのやる気や熱意によって採用している。	法人代表者や幹部が面接し採用している。現在20代から60代の職員が働いている。休み希望も取りやすく、スキルアップの研修も積極的に参加できる体制である。また、個々の職員の得意分野が發揮され、外部評価当日は職員手作りのパウンドケーキを頂く事ができた。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対して人権の尊重するよう日頃より、教育している。	新任研修時に人権教育を行い、常に人権の尊重という意識を持ってケアするよう話し合っている。	

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼ毎月、法人全体の勉強会を開催している。また、その勉強会をそれぞれの月で各部署担当制として、自分たちで、どんなテーマについて勉強会を行うか、そのテーマの資料づくり等を通して学ぶ機会を確保している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて、各ホームが担当で勉強会を行い、その際、ホーム内の見学や意見交換などを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、生活歴や既往歴等の把握により、ご本人を理解するよう努める。そのうえで、ご本人に寄り添い、傾聴し、ご本人が安心できるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談や困っている事、希望などを聴く機会を作り、話しやすい環境、雰囲気作りに努めている。また、グループホームへ入居させることに、ご家族が罪悪感を抱かない様配慮している。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内には、グループホームだけでなく、居宅支援事業、デイサービス、高齢者用ケア付きアパート、訪問看護等があり、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみなどを一緒に行ったり、歌を一緒に歌ったりして、過ごしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との情報の共有を行ったり、食事介助などのケアをしていただいたりして、ともにご本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間などを設けていないため、いつでも気軽にご家族や、ご友人に会いに来ていただけるような雰囲気作りに努めている。	散歩がてら元々利用していた通所介護を見に行ったり、行きつけの美容室に行ったりしている。友人が面会に来てくれることもあり、貴重な時間を大切に暖かく見守っている。	

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者同士の関係性を考慮して、座る席を 決めている。また、一緒に歌を歌ったり、利 用者間に職員が立ち、コミュニケーションが 円滑に行えるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の転居が多いので、継続的なかか わりを持っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人の希望、意向に努めており、ご本人 より希望などを聞き出すことが困難な場合 は、ご家族からの情報などをもとに本人本 位に検討している。	家族の面会時に意向の確認をしたり、居室で 1対1になった場面で意向を聞いたりしてい る。本人が表現しやすい声かけをしたり、言 動や態度、表情でくみ取る事もある。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	ご本人、ご家族や担当ケアマネージャーより 生活歴などの情報をお聞きし、把握に努め ている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で、現状を把握するよう努 め、カンファレンス、ミーティングなどで、職 員間の情報の共有を行っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	アセスメントから課題の洗い出しや、ご本人 の状況や、日常生活の様子、また、ご家族 の希望や、主治医からの意見などを考慮し て介護計画を作成している。	職員は数人を担当し、ケアマネージャーと一 緒にケアプラン作成している。生活情報シー ト(出来ること・出来ないこと等)には、細かく 記載されており、個人の把握ができてい る。ケアプランは介護日誌にも綴じ、常に職員が 目を通せるようにし共有している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアを記録に残し、職員間の情報の 共有をを行いながら、介護計画の見直しに 活かしている。		

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には、グループホーム楽居、デイサービス、高齢者用ケア付きアパートがあり、ご本人、ご家族の状況、要望により当ホーム以外の協力も得ながら柔軟な支援に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急時の対応を学ぶ為、防災センター職員の方をお招きし、心臓マッサージ、AEDの使用方法等を講義して頂く。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	運営母体がときつ医院であり、入居の際、院長、副院長と面談され、ご本人、ご家族の納得を得ている。また、必要に応じてや、希望に応じて病院の紹介なども行っている。	母体である医院より週1回から2回の往診と、歯科や眼科の往診もあっている。また、紹介状を書いてもらい整形外科や総合病院の受診支援を行い、家族に報告している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ときつ医院からの往診時に相談したり、往診以外でも、体調の変化等あった場合は、すぐにときつ医院と連絡を取れる体制を作っており、看護師と連携を取っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご本人の心身状態が把握しやすいようフェイスシートを記入の上、病院関係者へお渡しするようにしている。また、退院時は、病院関係者より、心身状態の情報をお願い連携を図っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	理念に「穏やかな死の援助」と上げており、入居当初より話し合い、終末期の方針について共有している。また、ときつ医院との連携の中で、ご本人の状態や、ご家族の希望により、ときつ医院と同敷地内のグループホーム楽居や、その他のホスピスなどの紹介も行っている。	入居時に終末期の方針について説明を行い、状態が変化した時には再度、主治医や管理者から説明を行い、家族の意向を確認し尊重している。理念のひとつである「穏やかな死の援助」に向けて、法人全体で連携し支援している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、いつでも閲覧できるようにしている。また、勉強会にて、ときつ医院看護師による講義や、防災センター職員の方をお招きして、実践する機会を作っている。		

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度、消防訓練を行い、通報訓練、初期消火、避難経路の確認など行っている。また、地域の防災訓練にも参加させて頂いたり、運営推進会議の中で、災害が起きた場合の協力をお願いなど行っている。	年2回通報訓練や消火訓練、避難訓練が実施されている。火元の特定と対処方法を学び職員のみが避難訓練している。スプリンクラーの義務はなく設置はしていないが、通報システムの設置は行っている。校区の防災訓練にも参加している。	避難訓練の参加者は職員のみである。立地条件や夜間を想定した場合、半数以上の利用者が車椅子使用の現状を考えると、利用者及び近所の方も参加した訓練が必須である。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者本位なケアを心がけ、プライバシーを損ねないように注意している。	年4回「たくあん通信」を写真付きで発行しているが、集合写真を載せ全員に同じ物を配布するのではなく、プライバシー保護の観点から個人写真、個人通信として家族のみに配布されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の能力によって希望を伺ったり、選択肢から選んで頂いたり、表情や態度、様子から読み取るよう努め、自己決定できるように働きかけている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者本位なケアを心がけ、ご本人の心身の状況に応じて過ごして頂いている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用しており、ご本人やご家族の希望に添えるようなカット、パーマ、カラー等を支援している。また、必要に応じて、ご家族に洋服等の購入をお願いして、ご本人らしい身だしなみができるようにしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備等は、業者へ委託しているため、一緒にする機会はないが、テーブルを拭いて頂いたりして、力を活かせるよう努めている。	調理・盛り付けは委託業者が行っており、栄養も管理されている。利用者が食べたい物をメニューに取り入れる事も可能である。お食事会等の行事がある時は、職員の手料理に変更している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に、10時、15時、19時に水分補給をして頂き、一日の水分量を確保している。また、栄養士により献立を作成し、栄養バランスを考慮している。食事は入居者の能力に応じて、普通食、刻み食、ミキサー食と分けている。		

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に応じて、歯間ブラシ、糸ようじ、タフトブラシ、口腔スポンジ等、個別に行っている。また、週に1回、歯科衛生士さんによる口腔ケアをして頂き、それぞれの入居者の口腔ケアのアドバイスを頂いている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しやすいように、日々の記録に、一日を通した排泄表を記載するようにしている。それを参考に定期的にトイレ誘導、トイレの声かけを行っている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、時間毎ではなく利用者のパターンに沿った誘導をしている。日中は、リハビリパンツやパットを使用している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給に心がけ、朝食後には牛乳等の乳製品を召し上がって頂いている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の状態に応じて、その日その日の入浴される方を決めていますが、入浴予定者以外の方が、希望された時は希望に添えるよう支援している。	利用者の希望に合わせて14時から16時位で対応している。最低でも週2～3日は入浴できるよう支援している。リフトを備えているため、またぎが困難な方でも浴槽に浸かることができる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体調やペースに応じて、就床時間を個人個人に合わせている。日中も、お疲れな様子の時は随時休んで頂いている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情により、薬の効能や副作用を理解しており、入居者の能力に応じて、錠剤を粉砕してゼリーに混ぜて服用して頂いている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどを一緒に行ったり、歌と一緒に歌ったりして、過ごしている。		

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節や天候によって散歩の機会を作っている。また、コーヒー好きな入居者は希望により近くのコンビニにコーヒーを買いに行ったりして、日々過ごして頂いている。</p>	<p>天気がいい日は散歩に出かけ、近くの公園に季節の木々や草花を見に行っている。希望があれば近所のコンビニエンスストアに同行し買い物支援を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご自分である程度管理できる入居者は、少額のお金を持ってあり、希望により一緒に買い物へ行っている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人の希望により、電話して頂いたり、年賀状等の手紙を書いて頂いている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビの音量が大きくなりすぎない様に気を付け、日の光によって、カーテンを開閉して室内の明るさに気を付けている。</p>	<p>リビングは2階吹き抜けで開放感があり、大きな窓からは明るい日差しが差し込んでいる。共用空間は清掃が行き届いており清潔感がある。ソファーや掘り炬燵の和室もあり、利用者や家族がくつろげる場所が確保されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには、畳みやソファーがあり、一人でゆっくりしたり、入居者同士で過ごせる空間がある。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人が自宅にて使用していた筆筒や、布団等を持ってきていただいたり、写真等を飾り、居心地良く過ごせるようにしている。</p>	<p>各居室には洗面台が設置され、部屋によっては専用トイレが設置されている。昭和初期の頃と思われる大きな筆筒を置かれている部屋もあり、本人の思いが詰まった部屋となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>歩行や立位保持の為、リビング内やトイレ、お風呂には手すりは設置している。また、お部屋の入り口には表札や、トイレ、お風呂などの場所が分かるように、表札をしている。</p>		